

2022年度

事業報告書

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

Ⅰ 事業の成果

MSFは2022年も、命の危機にさらされた数多くの人びとへ独立・中立・公平な立場で医療・人道援助を届けることができました。

「ついに1億人を越えた——」。昨年、そんなニュースが駆け巡りました。紛争や迫害によって住む場所を追われた、世界の難民・国内避難民の数です。

昨年、日本でも関心が高まったウクライナでの戦争のみならず、アフガニスタンの混乱、エチオピアの紛争などで多くの人びとが国内外に避難を余儀なくされました。シリアでは内戦が始まってから昨年で11年。バングラデシュでは、70万人を超えるロヒンギャの人びとがミャンマーでの迫害から逃れた危機から5年と、問題は長期化しています。

また、パキスタンの洪水や、干ばつによる食料不足が原因で子どもの栄養失調が深刻化したソマリアなど、世界各地で気候変動が人びとの命を脅かす事実を目の当たりにしてきました。気候変動が与える影響は決して平等ではなく、弱い立場の人びとにより深刻な危機をもたらします。

さらにいま、国際人道法に反して紛争地で医療が攻撃の対象となり、助かるはずの命が助からないという悲劇が多数発生しています。世界に衝撃を与えたウクライナの産科病院への攻撃もその一つで、決して見過ごしてはならない現実です。私たちはこれからも、医療・人道援助活動とともに、命を脅かす理不尽な事態に声を上げ続けていきます。

私たちMSFは、民間からのご寄付に支えられ、独立・中立・公平な立場で援助を提供するという変わらぬ理念を大切にす一方、時代に適応した変革も求められています。これまでの欧州中心の流れから脱して、アフリカやアジアなど地域ごとに意思決定を行うことで、その国や地域の文化に合った援助活動ができ、機動力も増すはずで、多様性が増す社会でより良い医療援助を行うために、日本やアジアからの視点を積極的に提起していきたいと考えています。

日本から世界へより大きな力を届けることができるよう、私たちの挑戦は続きます。一人でも多くの命を守るため、全力で活動を続けてまいります。

特定非営利活動にかかる事業

A) 2022年の海外での国内事業活動は下記の通りです。活動期間は2022年1月から12月、活動場所は国境なき医師団日本の東京事務所です。

事業活動	主要活動内容	担当職員	プログラム 支援金(百万円)
オペレーション・サポート・プロジェクト	アジアを含む世界各地での人道援助活動に寄与すべく、医療およびロジスティクスの面で、革新的な研究・開発、また創意工夫による改善に取り組むと共に、活動地で用いる物資を日本から直接調達する可能性について検討を重ねている。	5	78
海外派遣スタッフ募集・派遣業務	MSF日本は5つのオペレーション事務局の人材ニーズに応じ、海外の活動地にて人道援助プログラムに従事するスタッフの採用手続きを行い、海外派遣説明会等を実施すると共に、ビザ取得等の渡航準備及び各種の渡航前国内トレーニングを実施した後に、海外の活動地に派遣している。	11	164
アドボカシー活動	MSFの各事務局と連携し、各国政府、国際機関、製薬会社等に対し働きかけを行っている。	3	30
広報活動	MSF日本は、主要なミッションの一つとして、世界各地での医療・人道援助活動の現場での最新情報について、出版物、ウェブサイト、展示会ならびに各メディアを通して、既存の支援者および一般社会等に対して周知活動を行っている。	15	323
募金活動	MSF日本は、援助活動に充てる十分な資金を確保するため、さらなる支援者を募ることを目的として、ダイレクトメールおよび既存の支援者向けのニュースレター送付等による募金キャンペーンを行っている。	24	1,913
マネジメント及び一般管理費	東京事務局の運営に関するマネジメント、および人事・財務・総務・ICT等の管理部門の間接経費、その他理事会、年次総会等アソシエーションの運営費用。	29	274
2022年度東京事務所事業費計		87	2,782
2022年度事業費合計			13,022

B) 世界各国・地域での医療人道援助活動の実施

国境なき医師団(MSF)は世界41カ国に事務局または事務所を持ち、医療・人道援助活動を行う、民間・非営利の国際団体です。オペレーション事務局である、MSF フランス、MSF スペイン、MSF スイス、MSF ベルギー、MSF オランダおよび WaCA は、医療ニーズに基づき人道援助プログラムを企画・立案し、予算に基づいて世界各国、各地で医療・人道援助プログラムを運営しています。MSF 日本をはじめとする各パートナー事務局は、上記の6つのオペレーション事務局のすべてとパートナーシップ協定を結び、主に、援助活動の原資となるプログラム支援金を配分し、また活動地での医療・人道援助活動に参加するスタッフを各国内で募集し派遣する、という形で援助活動に参画しています。詳細は次ページ以降を参照。

(1) その他の事業

その他の事業は行っていない。

① 継続プロジェクトー 活動期間は2022年1月から12月です。

プログラムが運営された国	2022年度プログラム	プログラム支援金(百万円)
ブルキナファソ	<p>ブルキナファソでは国内避難民の数が150万人を超え、これは総人口のほぼ8%に達した。MSFは、紛争によって悪化した深刻な飲料水の不足に対処するために、給水車を手配し、井戸の建設および改修も行った。</p> <p>また、2021年に発生したサヘル地域のソルハン村への攻撃(2015年以来最大の被害となった)などの暴力の発生や避難民となった人びとへ対応するため、いくつかの緊急援助活動を開始。村に残ったり、周辺のコミュニティに避難したりした人びとに心のケアを提供し、さらに治療が必要な人びとにはワガドゥグの診療所への照会を行った。これらの緊急対応では、調理器具や衛生用品が入ったキットを配布し、移動診療所や現地に設置された簡易診療所で医療を提供した。</p>	40
中央アフリカ共和国	<p>中央アフリカ共和国(以下、「中央アフリカ」)では長年にわたり紛争が続いており、約150万人が国内避難民や国外への難民となった。人びとの医療へのアクセスは制限され、人道援助団体が必要な支援を届けることも困難になっている。</p> <p>MSFは、このような状況の中、母子保健や外科手術、性暴力、HIV/エイズ、結核の治療に焦点を当てた13の医療プロジェクトを継続。さまざまな緊急対応も行い、人びとに医療・人道援助を届けた。また、同国は世界で最も妊産婦死亡率の高い国の一つであるため、MSFは家族計画のサポートや妊産婦ケアにも取り組んでいる。MSFが支援する首都バンギの市民病院の産科・新生児科では、妊産婦ケアの提供を行うとともに、リスクの高い妊婦や新生児を対象とした緊急医療を担っている。</p>	551
チャド	<p>アフリカ中央部に位置するチャドは慢性的な健康危機に陥っており、度重なる感染症の発生と栄養危機、そして世界で最も高い乳幼児および妊産婦死亡率に直面している。</p> <p>MSFは、マンドゥル、ワダイ、モエン・シェリー、ダル・シラではしかの流行に対応した。その後、ワダイの活動はアドレを拠点とする長期的な小児科プロジェクトに変更し、この地域の医療不足に対応した。また、スーダンの西デルフル地域での紛争により増加した難民の支援を行った。</p> <p>ンジャメナでは、作物の収穫量が少ない季節に重度の栄養失調の子どもたちをケアする緊急援助活動を行い、年間を通じて家族や子どもたちのニーズに対応するプログラムへと発展させた。また支援がほとんど届いていない地域で重度の栄養失調を患う子どもが多数いるという情報を受け、ハジェ・ラミ州のマサコリで栄養対応を開始した。</p> <p>ダル・シラでは、地域に根差した健康プログラムを開始。マンドゥル州のモイサラでは保健省と協力して妊産婦と小児の医療の普及に取り組み、雨期の深刻なマラリアの発生を抑えるため抗マラリア薬を投与する化学的予防キャンペーンを実施した。</p> <p>また、カメルーン北部で、ムスグム族の漁師とアラブの遊牧民との間で起きた衝突の後、チャドに避難していた何千人もの人びとに援助を提供。診察や病院への搬送だけでなく、ンジャメナとマンデリア周辺の非公式キャンプで劣悪な状況で暮らす人びとに、水や毛布などの必需品を提供した。緊急援助活動では、E型肝炎の発生やタンジレでの暴風雨、アム・ティマンで発生した地域社会の暴力、ゴレでの中央アフリカ難民の人びとにも対応した。</p>	918
コンゴ民主共和国	<p>アフリカ大陸で第2位の面積をもつコンゴ民主共和国(旧ザイル、以下「コンゴ」)。長年にわたる武力抗争、医療体制の脆弱さ、エボラウイルス病やはしかの流行、性暴力の高い発生率など多くの問題を抱える。</p> <p>コンゴ26州のうち16州で活動するMSFは、同国史上で最大のエボラ流行やはしか流行に対応。エボラの対応では、医療施設と隔離施設でのサーベイランス(調査・監視)や患者の治療の優先順位を決めるトリアージ、診断、治療を行い、移動診療所を運営して患者やその家族、および流行地域の人びとを支援した。このほか一般診療、性暴力被害者へのケア、栄養治療、予防接種、手術、小児・妊産婦のケア、HIV/エイズ、結核、コレラの治療・予防などを提供している。</p> <p>また、多くの新型コロナウイルス感染症患者を受け入れていたキンシャサの大学病院やその他の治療センターを支援。市外でもいくつかの緊急援助活動を開始し、支援を行うすべての施設で新型コロナウイルス感染症の隔離と治療を強化するための対策を実施した。</p>	686
コートジボワール	<p>アフリカ中部の西側に位置するコートジボワールは、アフリカで最も医療制度が脆弱な国の一つで、人口1万人あたり医師が1人しかおらず、医療設備も不足している。同国では、てんかんや心の問題に偏見があり、ほとんど診断されることはない。MSFは、コートジボワールの中心地であるグベケ州で、人びとが心のケアを受けやすくするための取り組みを行い、診療所でのてんかんの診断と治療を行った。</p> <p>アビジャンでは、地域ごとに新型コロナウイルス感染症とマラリアの検査を行い、前者についてはワクチン接種センターを照会し、後者については軽度の患者に治療を提供した。また、MSFは人びとが医療を受けやすくするため、テレメディシン(遠隔医療:通信技術を使って診察を行うこと)を通じて患者に診察を提供する取り組みも行っている。</p>	497

プログラムが運営された国	2022年度プログラム	プログラム 支援金 (百万円)
ケニア	<p>ケニア東部のダダブ難民キャンプには、隣国ソマリアから毎週数百人単位で難民が到着している。人口 23 万 3000 人を超える過密なキャンプでは、人びとの生活環境は悪化。はしかやコレラなどの病気の発生リスクが高まっている。MSF は国連難民機関とケニア当局に対し、人道援助を強化し、集団予防接種を緊急に開始しなければならないと要請した。</p> <p>ダダブには現在、難民登録を済ませた人 23 万 3000 人以上が暮らし、その多くは 30 年以上キャンプで生活している。MSF は、30 年にわたるキャンプの歴史のほとんどにおいて、ダダブとその周辺で医療活動を展開。現在のプログラムは、ダガレイ・キャンプに焦点を当てており、簡易診療所 2 カ所と、92 床の病院を通じて、難民と地域住民を対象に基礎医療と専門医療を含めた総合的な医療を提供している。MSF の診療は、産科緊急手術を含むリプロダクティブ・ヘルスケア（性と生殖に関する医療）、性別・ジェンダーに基づく暴力に対する医療と心のケア、在宅インシュリンケア、緩和ケアなどが含まれる。</p>	40
マラウイ	<p>アフリカ南東部に位置するマラウイでは、同国最大の死因である HIV と子宮頸がんの患者のケアを継続している。マラウイ南部のチラズルでは、HIV の早期発見を促進し、ウイルス量が高い、心の問題を抱えている、二重感染（結核を含む）や栄養失調に苦しむ患者など、モニタリングや専門治療の強化が必要な人びとのケアを改善することに注力した。また、若い患者のためにスクリーニング検査や心のケアを提供するための「ティーンクラブ」を継続して運営した。また、マラウイにおける女性のがんの 40% を占め、毎年 2000 人以上の女性が命を落とす子宮頸がんのケアにも取り組み、南部の都市ブランタイヤでは、マラウイ保健省の協力のもと、子宮頸がんの検査、診断、治療を行う包括的なプログラムを運営している。</p>	200
ニジェール	<p>ニジェール南部では、毎年 7 月から 10 月にかけて、季節性の急性栄養失調とマラリアに苦しむ子どもたちが急増する。MSF は保健省と連携し、マラディ地域で重度栄養失調の子どもの治療に当たっているが、昨年はピークを迎える前の 6 月時点で、患者数は前年を大きく上回った。また隣国ナイジェリアからも、飢えに苦しむ多くの家族が栄養失調の子どもの連れて国境を越え、マラディの病院を訪れている。こうした状況の中、MSF はニジェールとナイジェリア、どちらの国の患者も受け入れ、栄養治療を実施。同地域での対応を拡大するとともに、さらに多くの命を救うため、ナイジェリアのカツィナ州でもプロジェクトの立ち上げを進めている。</p>	278
ナイジェリア	<p>アフリカ最大の人口を抱えるナイジェリアでは、紛争や武力衝突の影響で多くの人が避難生活を送っている。MSF は全土で最大規模の医療プログラムを展開。避難民への援助や、母子保健の改善、栄養失調の子どもたちへの対応、水がんなど「顧みられない病気」の治療など多岐にわたる。通常の一般・専門医療の提供に加え、コレラやラッサ熱などの病気の発生にも対応。治安や環境の悪化、風土病などがもたらす多くの健康問題に取り組んでいる。</p> <p>北西部のカツィナでは保健省と協力して、子どもたちの深刻なレベルの急性栄養失調に対処。ジビア地方行政区の 4 つの基礎医療センターで外来治療栄養センターの支援を開始した。ムバワとアバガナの国内避難民キャンプでは、基礎医療を提供する診療所を運営し、外来診療、産前産後ケア、栄養面の支援、健康教育、性暴力の被害者へのケアを提供した。</p> <p>またコレラの流行では保健省と協力して緊急援助活動を行った。パウチ州、ボルノ州、カノ州、ザムファラ州にコレラ治療センターを開設し、ワクチン接種と健康教育活動を行い、水と衛生の改善に取り組んだ。ソコトでは、「顧みられない病気」の一つである「水がん（すいがん）」の治療を支援。再建外科手術、栄養面や心のケアでの支援、アウトリーチ活動などを展開している。</p>	1,295
ソマリア/ ソマリランド	<p>過去 40 年間、MSF はソマリアおよびソマリランドにおいて、紛争、広範囲にわたる洪水や繰り返される干ばつなどの気候変動の影響、コレラやはしか、新型コロナウイルス感染症などの病気の発生により引き起こされた人道のおよび健康上の緊急事態に対応してきた。</p> <p>現在も、産科や小児科の診療、入院・外来患者の栄養面の支援、救急医療、結核の治療に取り組んでいる。また、国内避難民や受入地域のキャンプで基礎医療を提供する移動診療所を運営している。</p> <p>また、地元の医療団体と協力して、ジュバランドと南西ソマリアで「アイ・キャンプ」を実施し、放置すると失明の恐れがある一般的な目の病気についてスクリーニングと外科治療を実施した。</p>	460
タンザニア	<p>東アフリカに位置するタンザニア。MSF はブルンジ難民を受け入れているンドウタ難民キャンプとその周辺の受入地域に住む約 7 万 7000 人の難民に医療を提供した。その中には、性別・ジェンダーに基づく暴力の被害者のケアとカウンセリング、心のケア、結核、HIV/エイズ、非感染性疾患の治療が含まれる。また、キャンプ内の病院で小児病棟と成人病棟を運営し、分娩の支援も行った。緊急の外科治療や産科治療が必要な患者には、近くの公立病院への照会を行った。また、ンドウタ難民キャンプの病院では新型コロナウイルス感染症の隔離ユニットを開設し、41 人の患者を受け入れた。</p>	50

プログラムが運営された国	2022年度プログラム	プログラム 支援金 (百万円)
南スーダン	<p>2011年7月に20年以上にわたる内戦の末、独立を果たした南スーダン。和平合意や統一政府の発足後も多くの地域で不安定な情勢は続き、独立から10年以上を経たいまも、内戦や暴力によって大勢の人が命を落とす状況が続いている。加えて大洪水や食料危機、病気の発生など複数の緊急事態にも見舞われている。人道援助を必要とする人は、人口の3分の2を超える890万人に達している。MSFは南スーダンの6つの州と2つの行政区で人びとに必須医療を提供しながら、緊急の医療・人道ニーズに対応している。</p> <p>ユニティー州のベンティウ、レール、マヨム、ジョングレイ州のアヨド、ファンガクでは、移動診療所や病院、診療所を通じて緊急医療活動を展開し、膨大なニーズに対応した。これらのプロジェクトでは、主にマラリア、栄養失調、呼吸器感染症、急性水様性下痢症などの治療を数万人の人びとに提供。避難民の人びとにビニールシート、蚊帳、石けんなどの救援物資を配布した。</p> <p>西エクアトリア州のタンブラでは緊急対応チームを派遣し、暴力により避難を余儀なくされた人びとにさまざまな医療・人道援助を提供。ドゥマ、ナゲロ、タンブラおよび近隣のキャンプでは水と衛生の改善に取り組み、ドゥマとエゾの基礎医療施設ではトレーニングや医薬品・医療機器の寄付を行った。また、タンブラの2つの診療所の外来、入院、産科棟の再建支援を行った。移動診療所では、ソース・ユープの避難民キャンプで基礎医療と栄養失調のスクリーニングを提供。心のケアや健康教育を実施し、子どもの定期予防接種と重症患者の専門医への照会を支援した。</p>	725
コロンビア	<p>武力紛争による人道危機的な状況に加え、近年ベネズエラから多くの移民を受け入れており、現在250万人以上が不安定な状況に置かれているコロンビア。MSFはナリーニョ県では、バルバコアス市を拠点に救急医療プロジェクトを実施。12の緊急事態に対応したが、そのうちの10件は武力紛争が原因で、地域の人びとが避難を余儀なくされたり、暴力によって孤立させられたりしたものだった。他の2つは、洪水とマラリアの流行に対応するものだった。一般的な医療と心のケアの提供に加えて、衛生面の支援を提供し、避難した人びとに衛生キットと調理器具キットを配布。医療を受けることがほとんどできない農村地域では、医療と健康教育を提供する新しいプロジェクトも立ち上げた。</p>	56
グアテマラ	<p>メキシコの南に位置する、中米の国グアテマラ。慢性腎臓病はグアテマラの主要な公衆衛生問題の一つで、MSFは多発する慢性腎臓病に対応するため、メソアメリカ腎症プロジェクトを立ち上げ、早期発見、患者ケア、健康教育活動に取り組んでいる。</p> <p>また、グアテマラ第二の都市ケツアルテナンゴを拠点に、移住者の支援を中心とした新たなプロジェクトを開始。医師、心理士、ソーシャルワーカー、ヘルスプロモーター、チームマネージャー、ドライバーからなる2つの移動診療チームをサン・マルコス県とウエウテナンゴ県の各地に派遣し、メキシコや米国に向けて北上する人びとや、国外追放された大量のグアテマラ人の帰国者など、移動中の人びとのニーズに対応した活動を行った。</p>	33
ハイチ	<p>中米ハイチの首都ポルトープランスではギャングの勢力争いによる治安の悪化が深刻で、武力衝突、強盗、誘拐など慢性的な暴力が人びとに影響を及ぼしている。MSFは銃撃や病院の閉鎖、燃料不足などの困難に直面しながら、緊急事態に対応。首都では、タバール外傷病院で専門医療や救急医療を提供したほか、避難した人びとへ移動診療所を展開し、避難所では水や衛生設備を改善した。</p> <p>MSFは30年以上にわたりハイチで無償の医療を提供。首都ポルトープランス、南県、アルティボニット県で7つのプロジェクトを運営し、救命救急、外傷、やけど、性暴力の被害者の治療、リプロダクティブ・ヘルスケア（性と生殖に関する医療）などを行うほか、災害などの緊急事態でも恒常的に活動している。</p>	94
メキシコ	<p>毎年、推定50万人が自国の暴力や貧困から逃れ、米国への移住を希望してメキシコに入国している。MSFは、子ども、同伴者のいない未成年者、一人旅の女性、スペイン語を話さない人びと、大陸からの移民、高齢者、LGBTIQ+の人びと、暴力の被害者などの、最も立場の弱いグループへの支援を優先し、移住ルート上のさまざまな地点で医療と心のケアに取り組んでいる。</p> <p>首都メキシコシティの総合ケアセンター（CAI）では、過酷な暴力を受けた移民・難民や住民へ専門的な支援を提供。新型コロナウイルス感染症の対応では、ゲレロ州で医療や心のケア、社会的支援を提供する移動診療所を運営し、地域における基礎医療の普及に取り組んだ。また、これらの活動をミチョアカン州のティエラカリエンテ地域にも拡大した。</p>	89

プログラムが運営された国	2022年度プログラム	プログラム支援金(百万円)
ホンジュラス	<p>ホンジュラスは長年にわたり政治的、経済的、社会的に不安定な状態で、世界でも暴力の発生率が高く、人びとに医学的、心理学的、社会的に大きな影響を及ぼしている。MSFはチョローマとその近郊のサン・ペドロ・スーラで医療と心のケア、リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）に関する社会教育を開始した。医師、看護師、心理療法士、社会教育担当者などで構成されるチームが地域を訪問、産前産後ケア、心のケア、避妊、社会教育、健康教育などを行っており、暴力（特に性暴力）の発生率が高く、妊婦や思春期の若者の数が多い地域を重点的に回っている。</p> <p>また、健康教育チームは、診療所、学校、カルチャースクールやMSFの移動診療を通じて、思春期の子どもたちにリプロダクティブ・ヘルスの問題を教育するプログラムを開始。このプログラムでは、心理学の手法を用いた教育と対話やグループセラピーを行い、リプロダクティブ・ヘルスの不調に関する質問を受け、心のケアに対応するなどしている。</p>	40
ベネズエラ	<p>南米北部の海岸に面した国、ベネズエラ。全国の病院でスタッフや物資、基本的な医療ケアが不足しているため、MSFは施設の再建を行い、一般医療と専門医療を提供している。</p> <p>南東部の町トウメレモのホセ・グレゴリオ・エルナンデス病院では、地元当局および公衆衛生研究所の職員とともに、リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）分野の医療援助を開始。プライバシーに配慮しながら、地域の女性1000人以上に包括的で無償の家計計画相談を実施した。約90%の女性が何らかの形で避妊を行い、70%以上の女性が皮下インプラントや子宮内避妊具など長期的に有効な避妊法を受けた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の流行対応の一環として、カラカスでは医療や心のケアを必要とする患者のためのトリアージ区画を備えた専用のプロジェクトを実施。また、全国の診療所でも新型コロナに感染の可能性がある患者に対応するためのトリアージ態勢を導入した。</p>	172
バングラデシュ	<p>バングラデシュでは、2017年のミャンマー国軍による掃討作戦から逃れたロヒンギャ難民が、終わりの見えない避難生活を送っている。MSFは、約100万人が暮らすコックスバザールの難民キャンプでロヒンギャ難民と地域の人びとにさまざまな専門医療を提供。糖尿病や高血圧などの慢性疾患の治療、外傷患者のケア、女性の健康を守る活動などを展開するほか、水と衛生設備の改善も実施している。コックスバザール全体で、3カ所の病院、3カ所の基礎医療を提供する診療所、2カ所の専門クリニックを含む9つの医療施設を運営している。</p> <p>また、首都ダッカでは、リプロダクティブ・ヘルスケア（性と生殖に関する健康）や、性別・ジェンダーに基づく暴力の被害者へ医療や心のケアを行っている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の緊急対応では、中度から重度の症状を持つ人びとのために、16床の新型コロナウイルス感染症緊急治療センターを開設し、運営した。</p>	175
インド	<p>MSFはインドで特定の医療ニーズや新たな公衆衛生上の懸念に対応するため、州当局と連携して数多くの長期的なプロジェクトを実施している。カシミール地方の紛争の影響を受けた人びとへの心のケアの支援、チャティスガル州の遠隔地における基礎医療の提供、首都ニューデリーの性別・ジェンダーに基づく暴力の被害者への治療など、幅広い医療活動を継続的に行った。</p> <p>ムンバイでは、薬剤耐性結核の複雑な症例の治療に取り組み、市内で最も結核の発生率が高い地区で外来診療を支援。マニプール州のHIV/エイズ施設では、患者のニーズに合わせたケアモデルを実践。また、抗レトロウイルス治療施設と地区病院のHIV感染症入院治療を支援し、ホームレスの注射による薬物使用者の人びとに食券と保存食を配布している。</p>	33
マレーシア	<p>マレーシアでは、難民、庇護希望者、無国籍者は国内法により犯罪者として扱われるため、非正規の身分のために医療や教育を受けることや、労働に従事することができない。MSFは、難民、庇護希望者、非正規移民労働者に焦点を当てた、ペナンにおける政府主導の新型コロナウイルス感染症のワクチン接種計画を支援するとともに、当局に対し新型コロナウイルス感染症の対応における「万人のための医療」の導入と、医療を求めたために難民や庇護希望者が罰せられたり拘束されたりしないよう法律の更新を呼び掛けた。また、バターワースの診療所、ペナンとケダの移動診療所、拘置所での活動を通じて、ロヒンギャやその他の人びとに一般的な医療と心のケアを提供。患者を専門的な医療機関に照会し、男性と女性の両方の人身売買の犠牲者を含む、多くの性暴力被害者を支援している。また、地域社会との関係や逮捕、拘留、再定住に関する問題に取り組むためのスキルを人びとが習得するのを支援するために、地域主導のアドボカシーグループを立ち上げた。</p>	111
フィリピン	<p>MSFはアジアで最も高い結核罹患率のフィリピンで、結核対策に取り組んでいる。首都マニラにある、人口密度が高く貧困層が多いトンド地区では、新たな結核プロジェクトを立ち上げた。</p> <p>南部の都市マラウィでは、2017年にばっ発した国軍と過激派組織「イスラム国」(IS)系グループの間の武力紛争の影響を受けた人びとや避難者に、基礎医療や心のケアを提供した。2020年以降は新型コロナウイルス感染症の対応を支援。2022年にはフィリピンを直撃した超大型台風22号(アジア名:ライ)への対応を支援し、ディナガット、シャルガオなどの離島地域で医療・人道援助活動を行った。</p>	243

プログラムが運営された国	2022年度プログラム	プログラム 支援金 (百万円)
ミャンマー	<p>2021年の政変により国軍がふたたび権力を掌握したミャンマー。政治危機が深まる中、医療体制は崩壊に追い込まれた。MSFはミャンマーの医療空白を埋めるために活動を強化。新型コロナウイルス感染症の対応をはじめ、HIV/エイズや結核、HIV/エイズとC型肝炎の二重感染者への治療も継続した。首都ヤンゴンでは基礎医療を提供する診療所を開設している。</p> <p>西部のラカイン州では少数民族ロヒンギャの人びとが数十年にわたり迫害を受けており、2017年には国軍による大規模な掃討作戦により75万人以上が隣国のバングラデシュへ避難。MSFはラカイン州に残るロヒンギャの人びとやその他の少数民族の人びとに医療を届けている。</p> <p>MSFはミャンマー最大の都市ヤンゴンと、カチン州のミッチーナとバカントに、中度から重度の症状を持つ患者を受け入れる独立した新型コロナウイルス治療センターを3カ所開設。また、ヤンゴンでは基本的な医療ケアを拡大し、新型コロナの経済的影響と政治危機の影響を受けている低所得の人びとを支援する診療所を開設した。ダウェイ、バカント、ミッチーナで運営している診療所に基本的な医療を加え、専門治療施設への照会も拡大した。</p>	133
パキスタン	<p>2022年8月末に発生した大洪水で、国土の3分の1が水没したパキスタン。いまだ一部の地域では冠水したままで、感染症のリスクが人びとを脅かしている。安全な水も食料も不足し、子どもの栄養失調も深刻である。</p> <p>MSFは現在、バルチスタン州、シンド州、カイバル・バクトゥンクワ州の3つの州で活動を展開。バルチスタン州とシンド州では10の移動診療チームが活動し、マラリア、下痢、呼吸器感染、栄養失調の患者に多く対応し、これまでに移動診療を通じて9万5940人以上の人びとに診療を行った。また3つの州全てで、水と衛生に関する活動を行うとともに、救援物資の配布も行っている。これまでに4億6500万リットルの清潔な飲料水を供給したほか、衛生用品、台所用品、テント、蚊帳などが入った救援物資を4万4800セット以上配布した。</p> <p>パキスタンでは、医療の普及が依然として課題であり、特に農村部では女性や子どもが無料で質の高い医療を受けられる機会は限られている。MSFはバルチスタン州とカイバル・バクトゥンクワ州の5つの場所で活動し、リプロダクティブ・ヘルスケア（性と生殖に関する医療）や新生児医療、小児医療を提供している。</p> <p>また、MSFは「顧みられない熱帯病」の一つ、皮膚リーシュマニア症の治療にも取り組んでいる。2022年、南西部バルチスタン州で3481人、北西部カイバル・バクトゥンクワ州で1645人の皮膚リーシュマニア症患者を治療した。各治療センターでは、診断、専門治療、安全で効果的な薬物療法を無償で提供している。また、この病気や治療、予防についての健康教育も実施。バルチスタンでは心のケアも提供しており、2022年は1150人の患者にカウンセリングを行った。さらにMSFは同年、パキスタンで皮膚リーシュマニア症の新たな治療法を研究するため、臨床試験を開始。従来の第一選択薬と新しい方法との比較を予定している。現在71人の患者がこの臨床試験に参加している。</p>	212
アフガニスタン	<p>40年にわたり続く紛争や度重なる干ばつなどにより、複合的な危機に瀕してきたアフガニスタン。2021年にタリバンが実権を掌握して以降、国際的な援助の凍結などにより人びとの生活はさらに困窮した。医療システムも脆弱な状態が続き、人材や資機材の不足、医療への攻撃などにより、多くの人びとが必要な医療を受けられない状態にある。また、アフガニスタンは妊産婦死亡率が世界で最も高い国の一つであり、MSFは、妊産婦のケア、小児医療、救急医療に重点的に取り組んでいる。</p> <p>MSFは現地保健省と協力して、ヘルマンド州の病院で活動を実施。ホースト州の農村部では産科病院を、カンダハルでは薬剤耐性結核に取り組み、クンドゥーズ州では外傷センターを運営。ヘラート州では、避難してきた栄養失調の子どもたちの治療を行い、新型コロナウイルス感染症治療センターも運営している。</p>	200
イラン	<p>MSFはイランで、テヘラン南部の薬物中毒者やセックスワーカー、路上生活を送る子どもたち、イラン東部の少数民族ゴルバティやアフガニスタン難民など、疎外された人びとに無償で医療を提供している。</p> <p>首都テヘランとアフガニスタン国境近くに位置する第二の都市マシュハドでは、人びとに臨床的・心理的支援を継続的に行った。MSFは固定の診療所と移動診療所の両方を運営し、20年以上にわたって薬物中毒者を支援してきたイランのNGOや回復支援協会などの地元の組織と連携して活動に取り組んでいる。テヘラン南の郊外では、ピアワーカーによるカウンセリングや支援、心理・社会的支援、医療と心のケア、産前産後ケア、家族計画、性感染症の治療など、包括的な医療を提供。HIV/エイズや結核、C型肝炎などの感染症の検査も利用できるようにした。マシュハドでは、一般的な医療相談、C型肝炎患者のスクリーニング、治療と経過観察、B型肝炎と破傷風の予防接種、カウンセリング、社会的支援、健康教育、専門医療施設への照会などを行った。アフガニスタンと国境を接するこの地域では、MSFの医療はアフガニスタン難民にも平等に開かれている。</p> <p>また、MSFはイラン赤新月社に40台の酸素濃縮器を寄贈し、イラン国内での新型コロナウイルス感染症の流行対応を支援した。</p>	129

プログラムが運営された国	2022年度プログラム	プログラム支援金(百万円)
イラク	<p>イラクでは第二の都市モスルで、過激派組織「イスラム国」(IS)の3年に及ぶ支配が激しい奪還作戦を経て2017年に終わったものの、戦闘によるインフラの破壊などによる余波に人びとはいまだ苦しめられている。イラク全土で国内避難民の数は約120万人に上る(2022年、国連難民高等弁務官事務所)。</p> <p>MSFは紛争の長期的な影響に苦しむ人びとの医療ニーズに応えるため、母子保健や心のケア、外傷患者のリハビリテーション、避難民キャンプでの支援などの活動を行っている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の流行で特に大きな打撃を受けた首都バグダッドでは、これに対応して、アル・キンディ病院で運営している新型コロナウイルス感染症専用集中治療室(ICU)を52床に拡張し、多くの重症患者に対応した。また、病院の経営陣や医療チームと緊密に協力して、救命処置や理学療法、心のケアを提供した。モスルでは、新型コロナウイルス感染症病棟を運営し、シンジャルのシヌニ総合病院で軽度および中度の患者のための病棟を運営。さらに、タル・アファル総合病院では基本的な感染予防と管理のトレーニングを支援し、バグダッドの新型コロナウイルス感染症病院に個人防護具(PPE)を寄贈して、感染症対策への支援を行った。</p>	212
レバノン	<p>85万人を超える登録シリア難民を受け入れているレバノンの医療制度は近年、社会的・政治的不安、経済破綻、2020年8月にベイルートで起きた爆発などにより崩壊し続けている。</p> <p>MSFは、難民や移民労働者など、最も立場の弱い人びとが無償で質の高い医療を受けることができるように活動。アッカー、ザーレ、南ベイルート、ベッカー高原で、リプロダクティブ・ヘルス(性と生殖に関する健康)、一般・集中治療、非感染性疾患の治療、子どもの定期予防接種を行っている。また、ザーレではサラセミアの子どもたちの治療も行っている。また、新型コロナウイルス感染症の流行対応では、バル・エリアスの病院を一時的に新型コロナウイルス感染症治療センターに変え、支援した。</p>	65
パレスチナ	<p>イスラエルによる占領・封鎖下で、暴力や紛争が繰り返されているパレスチナ(ヨルダン川西岸地区とガザ地区)。人びとは長く、戦争がもたらす心身の痛みにさらされている。</p> <p>MSFは、ガザ地区でやけどや外傷の治療、ヨルダン川西岸地区で心のケアを提供。</p> <p>ヨルダン川西岸の都市ヘブロン「H2」地区では、女性と子どものための移動診療所を開設。基礎医療や心のケアなどを提供している。加えて、ヘブロンでは地域社会で応急処置のトレーニングを行い、一般・専門医療施設に医療用品を寄贈した。</p> <p>ガザでは長期的な活動を続け、3カ所の病院と5カ所の診療所で外傷患者と火傷の犠牲者に外科治療と術後ケア、心理・社会的支援を行った。また、ヨルダン川西岸地区ではナブルス、ヘブロン、カルキリヤの人びとを対象に心のケアを提供している。</p>	167
シリア	<p>2011年以降11年に及ぶ内戦が続いているシリア。1460万人が人道援助を必要とし、国内避難民の数は世界最多の690万人に達した。2020年以降はコロナ禍と経済危機でさらなる苦境に追い込まれている。</p> <p>反体制派最後の拠点である北西部イドリブ県では、非公式の過密なキャンプに暮らす避難民も多く、生活に必要なものをほとんど得られない。北東部では、「イスラム国」の支配から逃れた大勢の女性と子どもが、アルホール難民キャンプなどに身を寄せている。</p> <p>MSFの活動は、情勢不安とシリア政府から許可を与えられないことで大きく制限されている。アクセス交渉が可能な北西部や北東部では、病院や保健センターを運営・支援し、避難民キャンプで医療を提供している。</p> <p>医療体制が非常に脆弱なままのイドリブとアレppo両県の医療ニーズに対応するため、この地域で唯一の火傷専門治療室を含む8カ所の病院を支援した。また、移動診療所を運営し、キャンプに住む避難民に治療を提供する診療所の支援も行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の流行の複数の波が発生した際は、シリア北東部全体で唯一のPCR検査施設であるカミシュリ研究所を支援し、必要な検査材料を提供。また、地元のパートナー団体と協力し、ハサケとラッカの治療センターで新型コロナウイルス感染の疑いがある、または感染が確認された人びとを治療し、地域全体の医療施設に医療物資を寄贈して、新型コロナウイルス感染症への対応を支援した。</p>	605
バブアニューギニア	<p>バブアニューギニアでは、結核の検診と治療の普及に取り組んでいる。2014年から2021年の間に診断された約4000人の結核患者のうち、2000人以上が治療を完了し1000人が完治した。</p> <p>MSFは国立結核プログラムと協力して、首都ポートモレスビーのゲレフ結核診療所でのスクリーニング、診断、治療開始、フォローアップの能力を拡大してきた。また、移動診療チームは地域に赴いて患者の治療の順守を促している。湾岸州においても、MSFの結核対策プログラムは2カ所の診療所とケレマ総合病院を支援している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の流行対応では、ポートモレスビーで患者を治療し、22の州で医療従事者へのトレーニングを行った。</p>	282



プログラムが運営された国	2022年度プログラム	プログラム 支援金 (百万円)
イエメン	<p>2015年から、暫定政府と反政府武装組織との間で内戦が続くイエメン。貧困や深刻な食料危機で人口の7割に当たる人びとが援助を必要とし、国連が「世界最悪の人道危機」と呼ぶ危機的な人道状況に陥っている。国内で家を追われた人びとは400万人を超えた（2022年、国連難民高等弁務官事務所）。攻撃による医療施設の破壊、人員や医療物資の不足などを受け、医療体制は脆弱だ。MSFは、紛争の負傷者の外科治療や、心のケア、栄養失調児の治療、母子保健などの医療援助を提供している。</p> <p>2016年からMSFはタイズのフーバン地区で母子病院を運営しており、外傷の安定化、ハイリスクや複雑な症例のための産科ケア、小児・新生児の入院治療、入院栄養治療を提供している。タイズ市では、専門的なリプロダクティブ・ヘルスケア（性と生殖に関する医療）のニーズに対応するため、保健省と共同で、アル・ジュムフリ病院で妊産婦・新生児ケアを開始。2020年12月に運営を開始したホデイダのアルカナウイス母子病院では、帝王切開や入院新生児ケア、心のケアなどの産科医療を提供している。ハッジャのアブス総合病院では、緊急治療室、小児病棟、新生児病棟、月に1000件を超える分娩が行われる産科病棟、入院治療栄養センターを引き続き支援している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の流行対応ではサヌア、アデン、イップで治療センターを展開し、そこで国内では数少ない集中治療室を運営していた。</p>	405
ヨルダン	<p>ザータリ キャンプ内での COVID-19 活動を支援し、確認された患者とその接触者の状態を監視し、ケアが必要な患者を治療センターに移送し、より深刻な症例はマフラクの公立病院に紹介。</p> <p>イラク、イエメン、シリア、パレスチナの戦争負傷者のための再建手術プログラムは、COVID-19 によるロックダウンと旅行制限の後、着実に活動を再開している。この病院は、整形外科、形成外科、顎顔面外科のほか、人々が肉体的および精神的に完全に回復できるように総合的なケア サービスのパッケージを提供しており、これには、理学療法、疼痛管理、メンタルヘルスケア、社会的支援、さらには小児患者のための学校が含まれる。</p>	94
ウクライナ	<p>2014年から東部で紛争が続いていたウクライナ。2022年2月、ロシア軍が複数の都市を攻撃し戦争状態となった。激しい戦闘により多くの人が家を追われ、国内外での避難を余儀なくされている。1997年からウクライナで結核などに関する活動を行ってきたMSFは現在、戦争の影響を受けた人びとに医療援助を届けるため、国内と近隣諸国で緊急対応を展開。医療列車による患者の搬送のほか、心のケアや移動診療、医療物資の提供、医療者への研修などを行っている。</p> <p>2022年2月に戦争が激化した際、MSFは首都キーウだけでなく、東部と南部の病院にも必要な物資の供給を開始。以来、合計800トン以上の医薬品、医療物資、人道物資を診療所や病院に届けた。また、一度に多数の負傷者が運ばれてきた場合の対応や負傷者の治療について、各地で数百人の医療従事者にトレーニングを提供した。</p> <p>また、避難を余儀なくされた人びとへの医療・人道援助活動を展開。医療相談や慢性疾患（高血圧、ぜんそく、糖尿病、心臓病、てんかん）のモニタリング、性暴力被害者のケア、心のケア、重症患者の病院への照会を行い、医薬品を配布する移動診療所を複数開設。食料や救援物資の配布も行っている。また、戦闘によって避難してきた人びとへの心理的な応急処置を支援している。</p>	372

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

活動計算書

自 2022年1月1日 至 2022年12月31日

(単位：円)

科 目	当年度		前年度		増 減	増減比
	金 額	構成比	金 額	構成比		
<b>I. 一般正味財産増減の部</b>						
経常増減の部						
(1) 経常収益						
① 寄付収入 (財務諸表注記 1 (3) 参照)	13,006,036,409	100.0%	11,170,418,816	100.0%	1,835,617,593	16.4%
一般個人寄付	11,852,813,891	91.1%	10,434,880,219	93.4%	1,417,933,672	13.6%
一般法人寄付	955,455,551	7.3%	656,981,839	5.9%	298,473,712	45.4%
その他団体寄付	197,766,967	1.6%	78,556,758	0.7%	119,210,209	151.8%
② 助成金等による収入	12,534,641		750,732,410		△ 738,197,769	△98.3%
他のMSFからのグラント	12,534,641		750,732,410		△ 738,197,769	△98.3%
③ その他の収入	5,110,898		6,361,028		△ 1,250,130	△19.7%
アソシエーション会費収入	594,157		536,931		57,226	10.7%
利息収入および評価益等	4,516,741		5,824,097		△ 1,307,356	△22.4%
<b>経常収益 合計</b>	<b>13,023,681,948</b>		<b>11,927,512,254</b>		<b>1,096,169,694</b>	<b>9.2%</b>
(2) 経常費用 (財務諸表注記 1 (5) 参照)						
ソーシャル・ミッション (①+②+③+④+⑤)	10,261,046,185	82.4%	9,485,403,525	82.7%	775,642,660	8.2%
① 援助活動費	9,666,173,990	77.7%	8,855,453,542	77.2%	810,720,448	9.2%
人道援助プログラム支援金 (財務諸表注記 10 参照)	9,663,014,454		8,855,453,542		807,560,912	9.1%
その他の人道援助活動費	3,159,536		-		3,159,536	-
② オペレーション・サポート・プロジェクト	78,013,658	0.6%	81,064,702	0.7%	△ 3,051,044	△3.8%
人件費	38,199,001		44,178,118		△ 5,979,117	△13.5%
その他 (家賃、旅費交通費、減価償却費等)	39,814,657		36,886,584		2,928,073	7.9%
③ 海外派遣スタッフ募集・派遣業務	163,954,908	1.3%	132,215,878	1.2%	31,739,030	24.0%
人件費	97,724,071		83,318,528		14,405,543	17.3%
その他 (家賃、旅費交通費、減価償却費等)	66,230,837		48,897,350		17,333,487	35.4%
④ アドボカシー活動費	30,398,170	0.2%	29,321,904	0.3%	1,076,266	3.7%
人件費等	30,398,170		29,321,904		1,076,266	
⑤ 広報活動費	322,505,459	2.6%	387,347,499	3.4%	△ 64,842,040	△16.7%
人件費	130,835,105		109,598,695		21,236,410	19.4%
ニュースレター・イベント等による広報活動費	100,158,713		181,883,120		△ 81,724,407	△44.9%
業務委託手数料等	42,584,016		59,298,173		△ 16,714,157	△28.2%
その他 (家賃、旅費交通費、減価償却費等)	48,927,625		36,567,511		12,360,114	33.8%
募金活動費	1,913,172,154	15.4%	1,781,002,410	15.5%	132,169,744	7.4%
人件費	222,714,054		176,405,827		46,308,227	26.3%
ファンドレイジング・キャンペーン費	1,341,112,487		1,176,611,224		164,501,263	14.0%
業務委託手数料およびシステム関連費	139,564,994		243,831,501		△ 104,266,507	△42.8%
通信および書類等発送費	70,303,348		71,103,979		△ 800,631	△1.1%
印刷費	26,650,378		23,475,436		3,174,942	13.5%
その他 (家賃、旅費交通費、減価償却費等)	112,826,893		89,574,443		23,252,450	26.0%
マネジメントおよび一般管理費	273,934,634	2.2%	207,851,775	1.8%	66,082,859	31.8%
人件費	140,823,511		136,613,296		4,210,215	3.1%
アソシエーション関連経費 (人件費を除く)	10,925,932		4,784,948		6,140,984	128.3%
その他 (家賃、旅費交通費、減価償却費等)	122,185,191		66,453,531		55,731,660	83.9%
その他海外向け支援金等	574,468,017	-	441,367,989	-	133,100,028	30.2%
DNDiへの支援金	23,546,455		29,873,256		△ 6,326,801	△21.2%
必須医薬品キャンペーン支援金	32,321,439		36,008,365		△ 3,686,926	△10.2%
MSFインターナショナル事務局経費	232,714,577		184,026,918		48,687,659	26.5%
MSF韓国事務所活動支援金	285,885,546		191,459,450		94,426,096	49.3%
<b>経常費用 合計</b>	<b>13,022,620,990</b>	<b>100.0%</b>	<b>11,915,625,699</b>	<b>100.0%</b>	<b>1,106,995,291</b>	<b>9.3%</b>
一般正味財産当期増減額	1,060,958		11,886,555		△ 10,825,597	-
一般正味財産期首残高	1,187,364,875		1,175,478,320		11,886,555	-
一般正味財産期末残高	1,188,425,833		1,187,364,875		1,060,958	-
<b>II. 指定正味財産増減の部</b>						
1. 使途指定寄付金受入額	182,373,659		184,639,207		△ 2,265,548	-
2. 一般正味財産への振替額	182,373,659		184,639,207		△ 2,265,548	-
指定正味財産当期増減額	-		-		-	-
指定正味財産期首残高	-		-		-	-
指定正味財産期末残高	-		-		-	-
<b>III. 次期繰越正味財産期末残高</b>	<b>1,188,425,833</b>		<b>1,187,364,875</b>		<b>1,060,958</b>	<b>0.1%</b>

## 活動報告書—その他事業

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

2022年1月から12月期において、その他の事業の活動はなく、その他事業用の活動報告書は作成していない。

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

貸借対照表

2022年12月31日現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減	増減比
<b>I. 資産の部</b>				
<b>1. 流動資産</b>				
現金および預金	2,810,506,330	2,998,662,913	△ 188,156,583	△6.3%
未収入金 (財務諸表注記 6 参照)	220,130,359	367,281,098	△ 147,150,739	△40.1%
前払費用	11,089,782	13,235,882	△ 2,146,100	△16.2%
その他流動資産	-	1,244,316	△ 1,244,316	△100.0%
<b>流動資産合計</b>	<b>3,041,726,471</b>	<b>3,380,424,209</b>	<b>△ 338,697,738</b>	<b>△10.0%</b>
<b>2. 固定資産</b>				
その他の固定資産 (財務諸表注記 5 参照)				
建物附属設備	2,143,955	-	2,143,955	-
事務用什器・備品	15,697,561	23,996,851	△ 8,299,290	△34.6%
ソフトウェア	52,128,673	43,026,623	9,102,050	21.2%
長期差入保証金等	40,302,940	41,689,540	△ 1,386,600	△3.3%
<b>固定資産合計</b>	<b>110,273,129</b>	<b>108,713,014</b>	<b>1,560,115</b>	<b>1.4%</b>
<b>資産合計</b>	<b>3,151,999,600</b>	<b>3,489,137,223</b>	<b>△ 337,137,623</b>	<b>△9.7%</b>
<b>II. 負債の部</b>				
<b>1. 流動負債</b>				
未払金	1,909,236,726	2,250,998,631	△ 341,761,905	△15.2%
預り金等	343,641	387,717	△ 44,076	△11.4%
<b>流動負債合計</b>	<b>1,909,580,367</b>	<b>2,251,386,348</b>	<b>△ 341,805,981</b>	<b>△15.2%</b>
<b>2. 固定負債</b>				
退職給付引当金 (財務諸表注記 9 参照)	53,993,400	50,386,000	3,607,400	7.2%
<b>固定負債合計</b>	<b>53,993,400</b>	<b>50,386,000</b>	<b>3,607,400</b>	<b>7.2%</b>
<b>負債合計</b>	<b>1,963,573,767</b>	<b>2,301,772,348</b>	<b>△ 338,198,581</b>	<b>△14.7%</b>
<b>III. 正味財産の部</b>				
指定正味財産 (財務諸表注記 8 参照)	-	-	-	
一般正味財産	1,188,425,833	1,187,364,875	1,060,958	0.1%
<b>正味財産合計</b>	<b>1,188,425,833</b>	<b>1,187,364,875</b>	<b>1,060,958</b>	<b>0.1%</b>
<b>負債および正味財産合計</b>	<b>3,151,999,600</b>	<b>3,489,137,223</b>	<b>△ 337,137,623</b>	<b>△9.7%</b>

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 財務諸表の作成基準

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用している。

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産 定額法によっている。

耐用年数

建物附属設備および什器 3～5年

器具備品およびビデオ機器 3～15年

##### ② ソフトウェア 定額法によっている。

耐用年数 3～5年

#### (3) 収益の認識

寄付収入は原則として、現金主義に基づき認識している。

現物寄付の扱い：MSF 日本は金銭以外にも、現物寄付として、医薬品、ソフトウェア等の支援を受けている。これらの現物寄付は取得時に合理的に価額を見積もり、「寄付収入」として認識し、事業供用時に費用を計上している。

#### (4) 引当金の計上基準

退職給付引当金

職員に対する退職金の支給に備えるため、退職金規定に基づく期末要支給額を計上している。

#### (5) 消費税等の会計処理 税込方式によっている。

#### (6) 経常費用について

費用については主要な活動別に区分して表示している。

##### ① ソーシャルミッション

人道活動援助費用、活動のためのスタッフ募集等、医療及び研究・開発、広報およびアドボカシー費用など活動をサポートする費用

##### ② 募金活動費

##### ③ 管理部門費

##### ④ その他 MSF 海外オフィス費用及び必須医薬品キャンペーン・新薬開発イニシアティブへのサポート費用

2. 基本財産および特定資産の増減額 該当事項はない。
3. 基本財産および特定資産の財産等の内訳 該当事項はない。
4. 担保に供している資産 該当事項はない。
5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額および当年度末残高  
固定資産の取得価額、減価償却累計額および当年度末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当年度末残高
建物付属設備	54,016,634	51,872,679	2,143,955
事務什器備品	99,263,887	83,566,326	15,697,561
什器	22,507,931	20,826,309	1,681,622
器具・備品	70,242,327	56,226,388	14,015,939
ビデオ機器	6,513,629	6,513,629	-
ソフトウェア	119,371,518	67,242,845	52,128,673
総計	272,652,039	202,681,850	69,970,189

6. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高および当該債権の当期末残高  
債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高および当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収金	220,130,359	-	220,130,359
総計	220,130,359	-	220,130,359

7. 保証債務等の偶発債務 該当事項はない。
8. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳  
指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次の通りである。

(単位:円)

科目	金額
経常収益への振替額	182,373,659
総計	182,373,659

9. 退職給付引当金

- (1) 採用している退職給付制度の概要 内部規定に基づき、退職一時金制度を設けている。
- (2) 退職給付債務およびその内訳  
退職給付債務 53,993,400 円、退職給付引当金 53,993,400 円
- (3) 退職給付費用 11,382,400 円

10. 当年度の人道援助プログラム支援金の配分内訳

(単位:円)

	国内支援者からの寄付	プログラム支援金合計
MSF フランス	5,683,454,454	5,683,454,454
MSF スペイン	1,989,780,000	1,989,780,000
MSF スイス	497,445,000	497,445,000
MSF オランダ	497,445,000	497,445,000
MSF ベルギー	497,445,000	497,445,000
MSF WaCA	497,445,000	497,445,000
総計	9,663,014,454	9,663,014,454

11. 重要な後発事象 該当事項はない。

財産目録

2022年 12月31日 現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I. 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金および預金	2,810,506,330	2,998,662,913	△ 188,156,583
手許現金	21,000	2,995,527	△ 2,974,527
普通預金 (㈱三菱UFJ銀行)	1,187,949,629	673,654,267	514,295,362
普通預金 (㈱三井住友銀行)	419,013,647	856,735,920	△ 437,722,273
普通預金 (㈱みずほ銀行)	110,102,522	72,156,054	37,946,468
振替貯金 (㈱ゆうちょ銀行)	883,077,936	1,235,546,058	△ 352,468,122
普通預金 (楽天銀行(株))	31,244,241	11,154,716	20,089,525
普通預金 (住信SBIネット銀行㈱)	28,686,672	8,880,645	19,806,027
普通預金 (住友信託銀行㈱)	37,703,378	27,705,343	9,998,035
普通預金 (三菱UFJ信託銀行㈱)	11,354,652	9,017,259	2,337,393
定期預金 (㈱三井住友銀行)	100,000,000	100,000,000	-
PAYPAL	1,352,653	817,124	535,529
未収入金	220,130,359	367,281,098	△ 147,150,739
未収金	119,460,022	115,543,434	3,916,588
MSF韓国からのグラント未収金	-	100,590,000	△ 100,590,000
MSF フランス	13,857,596	79,740,536	△ 65,882,940
MSF インターナショナル・オフィス	12,902,864	36,007,972	△ 23,105,108
MSFオペレーション事務局 (海外派遣者経費) 等	70,251,566	32,242,478	38,009,088
その他未収入金	3,658,311	3,156,678	501,633
前払費用	11,089,782	13,235,882	△ 2,146,100
その他流動資産	-	1,244,316	△ 1,244,316
仮払金	-	1,244,316	△ 1,244,316
<b>流動資産合計</b>	<b>3,041,726,471</b>	<b>3,380,424,209</b>	<b>△ 338,697,738</b>
<b>2. 固定資産</b>			
建物附属設備	2,143,955	-	2,143,955
事務所内装工事	2,143,955	-	2,143,955
事務用什器・備品	15,697,561	23,996,851	△ 8,299,290
什器	1,681,622	1,867,553	△ 185,931
器具備品	14,015,939	22,129,298	△ 8,113,359
ソフトウェア	52,128,673	43,026,623	9,102,050
長期差入保証金等	40,302,940	41,689,540	△ 1,386,600
事務所等の敷金	40,302,940	41,689,540	△ 1,386,600
<b>固定資産合計</b>	<b>110,273,129</b>	<b>108,713,014</b>	<b>1,560,115</b>
<b>資産合計</b>	<b>3,151,999,600</b>	<b>3,489,137,223</b>	<b>△ 337,137,623</b>
<b>II. 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
未払金(人道援助プログラム支援金)	1,285,448,042	1,911,960,149	△ 626,512,107
MSF フランス	657,054,454	1,312,403,542	△ 655,349,088
MSF スペイン	314,380,000	342,600,000	△ 28,220,000
MSF スイス	78,495,000	85,600,000	△ 7,105,000
MSF オランダ	78,528,588	85,600,000	△ 7,071,412
MSF ベルギー	78,495,000	85,600,000	△ 7,105,000
MSF WaCA	78,495,000	156,607	78,338,393
未払金 (国内事業経費・その他)	623,788,684	339,038,482	284,750,202
預り金等	343,641	387,717	△ 44,076
その他	343,641	387,717	△ 44,076
<b>流動負債合計</b>	<b>1,909,580,367</b>	<b>2,251,386,348</b>	<b>△ 341,805,981</b>
<b>2. 固定負債</b>			
退職給付引当金 (財務諸表注記 9 参照)	53,993,400	50,386,000	3,607,400
<b>固定負債合計</b>	<b>53,993,400</b>	<b>50,386,000</b>	<b>3,607,400</b>
<b>負債合計</b>	<b>1,963,573,767</b>	<b>2,301,772,348</b>	<b>△ 338,198,581</b>
<b>III. 正味財産の部</b>			
指定正味財産	-	-	-
一般正味財産	1,188,425,833	1,187,364,875	1,060,958
<b>正味財産合計</b>	<b>1,188,425,833</b>	<b>1,187,364,875</b>	<b>1,060,958</b>
<b>負債および正味財産合計</b>	<b>3,151,999,600</b>	<b>3,489,137,223</b>	<b>△ 337,137,623</b>



## 令和4年度年間役員名簿

（前事業年度において役員であったことがある全員の氏名及び住所又は居所並びにこれらの者についての前事業年度における報酬の有無を記載した名簿）

## 特定非営利活動法人国境なき医師団日本

## 1 確認事項（法第20条及び第21条を確認の上、チェックを入れてください。）

以下の役員には、欠格事由者が含まれません。（法第20条関係）各役員について、親族の規定に違反していません。（法第21条関係）

## 2 役員一覧

	役名 どちらかに○	(フリガナ)	前事業年度内の 就任期間	報酬を受けた期間 (該当者のみに記入)
		氏名		
1	○ <b>理事</b> ・監事	ナカジマ ユウコ	令和4年1月1日～ 令和4年12月31日	令和4年1月1日～ 令和4年12月31日
		中嶋 優子		
2	○ <b>理事</b> ・監事	クルミヤ タカシ	令和4年1月1日～ 令和4年12月31日	令和4年1月1日～ 令和4年12月31日
		久留宮 隆		
3	○ <b>理事</b> ・監事	タカハシ ケンスケ	令和4年1月1日～ 令和4年12月31日	年 月 日～ 年 月 日
		高橋 健介		
4	○ <b>理事</b> ・監事	コスギ イコ	令和4年1月1日～ 令和4年12月31日	年 月 日～ 年 月 日
		小杉 郁子		
5	○ <b>理事</b> ・監事	サイトウ テツヤ	令和4年1月1日～ 令和4年12月31日	年 月 日～ 年 月 日
		齊藤 哲也		
6	○ <b>理事</b> ・監事	デルマス ジル	令和4年1月1日～ 令和4年12月31日	年 月 日～ 年 月 日
		デルマス・ジル		
7	○ <b>理事</b> ・監事	ニシジマ スミレ	令和4年1月1日～ 令和4年12月31日	年 月 日～ 年 月 日
		西島すみれ (旧姓 空野)		
8	○ <b>理事</b> ・監事	キム テヨン	令和4年1月1日～ 令和4年12月31日	年 月 日～ 年 月 日
		キム・テヨン		
9	○ <b>理事</b> ・監事	ウアネス エリック	令和4年1月1日～ 令和4年12月31日	年 月 日～ 年 月 日
		ウアネス・エリック		
10	○ <b>理事</b> ・監事	コナテ イッサ カディノン	令和4年1月1日～ 令和4年12月31日	年 月 日～ 年 月 日
		コナテ・ イッサ カディノン		

事業報告用

11	理事・監事	モリカワ ミツヨ		令和4年1月1日～ 令和4年12月31日	年 月 日～ 年 月 日
		森川 光世			
12	理事・監事	スィーベルリチャード		令和4年1月1日～ 令和4年3月26日	年 月 日～ 年 月 日
		スィーベル・ リチャード			
13	理事・監事	ユソビ		令和4年1月1日～ 令和4年3月26日	年 月 日～ 年 月 日
		ユ・ソビ			
14	理事・監事	タオカ トモアキ		令和4年1月1日～ 令和4年3月26日	年 月 日～ 年 月 日
		田岡 知明			
15	理事・監事	タニグチ ヒロコ		令和4年1月1日～ 令和4年3月26日	年 月 日～ 年 月 日
		谷口 博子			

社員名簿（社員のうち10人以上の者の名簿）

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

	氏名	
1	中嶋 優子	[Redacted]
2	久留宮 隆	
3	高橋 健介	
4	小杉 郁子	
5	齊藤 哲也	
6	デルマス・ジル	
7	西島すみれ (旧姓 空野)	
8	キム・テヨン	
9	ウアネス・エリック	
10	コナテ・ イッサ カディノン	
11	森川 光世	
12		